



人間の進化について思うこと

昆 政彦

住友スリーエム
取締役

最近、“人間は進化しているのか？”の問いを考えることが多くなった。「最近の若い連中は物足りない」と私が社会人になったばかりの時に聞かされた言葉であるが、昨今は私自身の脳裏を同じ言葉がよぎるようになった。

金融制度を歴史적으로とらえた『マネーの進化史』(ニール・ファーガソン)を読んだ。過去の歴史を振り返ってみても、人間は、その根底にある欲をうまく使って仕組みの発展を図り、その畏にはまって繰り返し崩壊することを再認識した。17世紀と現代では、金融制度の完成度こそ、大きな違いがあるものの、その中で行動する人間のパターンをとらえたときに、違いは読み取れなかった。欲がパワーを生み社会に進化をもたらし、持てる者の慢心がスキを与え、そして、自滅する。次の世代は、その問題を究明したつもりになっただけで、同じ運命をたどる。リーマン・ショックは、近い将来形を変えて再現することを確信した。私は、欲を否定するつもりはない。欲の持っているプラスの効用は、人間内部にある成長したいエネルギー源だと考えている。

「正義」にも目を向ける必要があると思い、『白熱教室』で話題になっている、ハーバード大学のマイケル・サンデル教授のDVDを購入したが、こちらにもめり込んでしまった。「正義」と「公平」を考えさせる授業の手法もめり込んだ理由ではあったが、何よりも、紀元前の哲学者であるアリストテレスが論理的に確立させた「倫理性」を、現代のわれわれの行動に当てはめながら進めていくことに、強い興味を持った。こちらは、300年前どころではない歴史の繰り返しである。

“人間は進化しているのか？”の問いに対して、私がたどり着いている仮説は、人間は個々が一生のうちに進化をするので、人類そのものの進化はわずかな違いしかないことである。こう考えると、最も大切なことは、周りの「人間の進化」をみるより、「自分が進化」しているかが大きな違いを生むことになる。私は、“自分が進化しているか”が気になりだした。

(2011年4月執筆)

次回リレートーク: 安田 育生 (ピナクル 取締役会長 & CEO)